

法社  
人団  
府 東  
中 京  
支 都  
部 宅  
地  
建  
物  
取  
引  
業  
協  
會

昭和 4 2 年  
12 月 号 通 信  
№ 4 8

同  
舟

昭和四十二年十二月九日発行  
府 中 支 部  
編集発行責任者 高野 豊次  
報道出版部長 内山 一彦

記	事
三、府中支部歌の制定	一、第十回（十二月定例）支部役員会開催
四、物件紹介	二、消息
五、編集後記	三、盗難自動車の発見にご協力を
六、古語寸話	四、報道部としての諸見
七、原爆被害者の実態	五、私見
	六、人と店

第十回(十二月定例)支部役員会開催

とき 十二月九日午後四時より

ところ ダイワ不動産内 支部事務所

出席者 横峠、山村、辻、加藤(武)、山岸、栗

山、栗原、芦川、平井、吉野、結城、加

藤(友)各理事

内山監事、高野相談役

一、報告事項

(一) 山村支部長より

(イ) 健康保険の加入について

政府管掌健康保険の加入については二ヶ年に亘りその筋と交渉研究を続けてきたが一向にラチがあかず最近になつて漸やく法人丈でも既加入がなければ協会全体の加入はむづかしいことが判明した。当支部で現在法人が政府管掌の健康保険に加入してゐるものは僅か

に及びすや不動産と府中開発の二社丈であつて残余の法人(株式会社、有限会社等)は未加入につきこの際加入を希望することである。

但し加入手続は相当繁雑で加入が認められるか否かは疑問とするが、その手続は日本社会保証協会に依頼すると同社が代行する趣で 同社は

北区豊嶋二一七一〇番地

電話(〇三)九一一一四二五番である。

(ロ) 電柱張紙広告について

電柱に売土地、売家屋等の広告を張紙することとは法によつて禁止され発見されると処罰せらるるので注意してほしいと

(ハ) 米突法実施について

未だに尺メ法を用いてゐる向があり是非共米突法に移行することを望む

(ニ) 物件説明書説明会について

調布支部と協同で去る十二月一日物件説明書の説明会を開催したが、当支部よりは参加者廿七名

に達し盛会であつた。因に会議費用は六〇一〇

円を要したのでその半額を府中支部が負担した

(ホ) 本部十二月定例理事会の議題について、十二月十二日開催予定の本部理事会の議題は概ね次の通りである。

A 協会に未加入業者の加入勧誘

B 不良従業員の排除とリストの作成

C 写真コンテストの開催(二月十一日於八王子多摩ランド)

D 建築基準法改正方の協議

E 本部新年宴会開催(一月廿二日 会費一五〇〇円於新宿ステーションビル出席者は支部長に一任)

(ヘ) 叙勲者祝賀会について

去る十一月十七日叙勲を受けた協会員に対しての祝賀会は三三〇名の出席者により盛大に行なわれた。

(ヒ) 辻副支部長より

不動産手帳は十二月廿日完成の予定で十二月廿二日頃各員に配布の見込である。尚共済組合設立については今後引続き継続審議が行なわれる旨の説明あり、

(フ) 横峠監察委員長より

十一月十日及び十二月八日の二回に亘り本部に於て監察委員会があり協議事項はモグリ業者の摘発、取引主任者の名義借り、違反建築の防止等につき指示を受けた。

尚、本部に於て事故防止のポスターを作成し、十二月廿一日頒配布予定のことである。

四 山岸綱記委員長より

十一月廿九日綱紀委員会があり協会員にして業法違反のもの七名、誇大広告によるもの三名が摘発せられた。尚不良従業員のリストを作成し本部に提出することとなつた。

田 栗山相談所長より

十一月十八日改正借地借家法に關し平井、高橋両弁護士よりその手続及び裁判例など説明を受けた旨

三 周知事項

(一) 地価調査実施

明年一月十五日迄に府中支部区内における地価調査を実施する各員の御協力を求む

(二) 住宅局指導課長更迭

大橋指導課長は他に転出し、住宅局副主幹今村正吉氏が新たに指導課長となる。

(三) 府中支部新年宴会

明年一月廿日前後府中支部としての新年宴会を開催の予定で会費は一〇〇〇円の見込、全員参加を希望する。尙期日場所等は後刻通報。

四 支部歌制定

別掲府中支部の支部歌が今回の理事会で決定を見た。会員各位の愛誦を望む

\*\*\*\*\*消 息\*\*\*\*\*

※ 一年有余ヶ月立川病院に入院療養生活を続けてきた会員川内万久君は十一月二十二日全快し退院した。

◎ 盗難自動車の発見にご協力を!!

去る十一月二十五日夜 大邦不動産社長出口吉美氏の乗用車が桜並木通り自宅前の空地に駐車中盗難にあつた。勿論警察にお願いはしてあるが、府中支部会員諸氏の御協力をお願いする。

車種 トヨベットコロナ 四〇年型  
色 グリーンメタリック塗装  
車番 多摩5 三六〇三  
車検 四二年十二月

報道部としての諸見

報道出版担当 内山 一 巻

今年も残る日はあと僅かになりました。

会員の皆様方にはお変わりなきものと思ひますが、吾々不動産業者にとつては、今年も余り良い年ではなかつた様に思ひます。

唯今日まで一同が元気に暮らしてこられたと云うことが何よりの幸いでありまして喜ばしいことと思ひます。今後も皆様と共に体に気を付け胸を張つてしつかり頑張ろうではありませんか。

さて、私が報道部員として一言皆様にお知らせしたいことがございます。それは現在発行している同舟の編集者高野氏のことです。ご承知の様に同氏は病身であり乍ら支部役員会には毎月欠さず出席され会のあり方などを聞き細大もらさず同舟を以て報道し更らに色々の記事を書いて下さつておるその苦勞に對してであります。

私がこの度自分の気持からこの稿を思い立ちベン

を取つて見ました。が正直のところ思うことの十分の一も書けぬことが判り高野氏が今日まで黙々として書き続けてくれた事々々に対し唯々頭のさがる思いが致します。勿論現在の役員及び会員の方々は一人としてこの勞苦を知らない者はないと思ひますけれど万一同氏がこの編集を断る様なことがあつたとしても誰がこれを引受けるでしよりか。こうした意味からも同氏が氣持よく筆をとつてくれるようみんなではげまし慰めなければならぬと思ひます。

次に役員の話になりますが、支部役員は二年間と云う永い期間自分の仕事をなげ打つてでも毎月本部に一回乃至二回は出向かねばなりませんし毎月一回は必ず支部の役員会があつて出席を余義なくされておりますがこれもこの支部をよりよい支部にしたいばつかりに一生懸命努力してあるのであつて此辺も会員の皆様に知つて頂きたい事項の一つでもあります。

私達の任期は昭和四十四年の三月を以て満了となり、ますが後任者の選挙に關して私の考えを発表しますと

即ち支部長、副支部長、専務理事の三役は誰でも出来るものと云うものでないので、会員の選挙に必要がありすが、その条件としては、第一に人物であり、第二には豆々しく働く人であること、第三は金とひまのある人でなければならぬと思ひます唯、ひら理事は誰でも出来ると思ひますので順次当番制をとることにしたら一番良い様に思うが、これは一つそれまでに篤と考究することに致してはと思つています。

尚会員各位には色々意見なり「成る程」と思ひ様なことをお持ちの方もあらうかと思ひますが、そうした方は書面を以て報道部の私のところまでご一報をお願いしたいと思ひます。勿論毎月発行の同舟に掲載して全会員に読んで貰うことに致しますが、電話や口頭での申出では誤りがあると思ひますので、是非書面で投稿が願ひたいと思ひます。以上、とり止めもないことになりましたが、私の考えの一端を述べさせてもらいました。又次号に

### 私見

高野生

本年九月一日から広告審議会が発足したが、今日まで該審議会に依頼して認証を受けたものは僅かに二件程度だと聞く、今後どの様に進展するかは未知数であるが、正直のところ余り期待が持てないと思ひうのが本当かも知れない。

一体業協会では色々と思ひをしぼつて数多い部制や委員会制度を作つたのは結構であるが、その構想は聊か線香花火的なものがあり一面人の為にポストを作らんとするきらいなきにしもあらずである。

即ちこの広告審議会制度もそれに該当しないかと思ひれるもので第一権力のうすい者が一つの認証を出したところで社会的に見てどれ丈の権威があるかという問題である。それは認証がないよりある方がましだと云う程度ではなからうか。

尤もこれが監督官庁だと聊か意味も異なるし認証力もないがそれがそれにしてもこうした広告に認証がなければ効力がないと云う法律でもあるのなら兎

も角、そうでない限り何れにしても単なる自主的認証に終始するのではなからうか、又一面自己物件を第三者に認証して貰はねばその物件が処分出来ないと云うことは自らの無力を証明する所以のもので根性のある者のなすべき仕わざではない。

最近宅地造成協会でもこれと同様な制度を作つたと聞くが要は偽らざる広告を各個人に於てなすに於いてはそれで万事OKであつて是等を彼是れ考え合ふときこの様な審議制度の行くえは洵に影がうすい様に思われて仕方がない。

### 人と店

都道町田街道筋、正確に云へば稲城町坂浜と川崎市黒川との県境に東新不動産がある。

代表者は清水彦作君で氏は東京下町の産、云うなれば純粹の江戸子で本年三十七才の働き盛である。而して不動産取引業務は、平和不動産で勉強した

が、根が堅実で綿密、すべてに「そつ」がなく従つて地元の信用も亦絶大である。むべなるかな開店に際しては店一バイの贈り物があり実に盛大なる開店祝いに前途を祝福されたと云う。

社員としては取引主任の篠原正宣氏と地元有力者で元村議の新倉正蔵氏を配しているのでメンバーから見ても申し分がなく氏の力量と相俟つて正に鬼に金棒の人的構成である。

一方清水君は稲城自動車の社長も兼務し常に多様な業務に精進しつゝあり前途を嚮望する青年事業家の一人でもある。

どうか自重自愛大いに今後の発展を期待して止まな



関谷氏取材  
文責編集部

\*\*\*：原爆被害者の実態\*\*\*

指導部長 結城 一等

同舟、九月、十月号紙上にアメリカが日本に与えた原爆が如何に惨酷を極めた凶器であり、その被害を受けた者が身を以て体験せる私の拙文の、ほんの一部を掲載しました。この体験談に依り慰めのお言葉やら原爆に関する質問などを戴き感激して居ります。拾月は吾々被爆者の悲願である政府に対して、「被爆者援護法の制定」に関する請願を私は、全国四十万と、東京八千名（三多摩九百名）の、代表として政府佐藤首相や、関係大臣、及びアメリカ大使等に会見の準備の為、執筆が遅れ、加えて健康が勝れず十一月号は休載させて頂きました。政府側と会見の顛末は、テレビ、ラジオ、新聞等の報道の通りであります。

十二月号には、「東京学生原爆研究大会」に原爆被害者の実状を講演するように要請を受け、東友会（吾々被爆者の総本部）を村田君が代表して出席し

ました。この村田君の講演の内容を新聞社がテープレコーダーに収録してありますのを抜粋してその講話の要旨を掲載させて頂きます。尚村田氏は直接被害者ではなく、終戦直后原爆の汚染した機械の修理に因り感染した第二次被爆者であります。（以下村田氏の講話の一説）

私は大正の末期旧制の高等専門学校の機械工学を専攻致しまして卒業論文に「科化的に見る皇室」と題する卒論を書き、これが祟つて卒業を目の前に社会主義者の烙印をおされ学校を除籍追放処分を受けました。論文の内容たるや、民主主義の今日の社会に於ては、洵に馬鹿馬鹿しいものでありました。その当時皇室に關する事は、白が黒であると云つても罪せられた時代であります。昭和の天皇は一個の人格ある人間であります。終戦以前は天皇は神様であります。斯様な時代に科学を研究する学生の良識から書いた私の卒論は学生としての反動思想の持主として学校を追はれたこ

とは当然だつたと思ひます。

本日は被爆者の問題をお話しするのが目的であります故、科学的に見る皇室、の卒論の内容は別の機会に譲らせて頂きます。学校は除籍され卒業証書は貰えませんが、曲り成りにも先輩の助けて就職は出来ました。

總て日本は軍備拡張時代が来しました。平和産業は軍の命令で、軍の監理下に置かれ日夜兵器の増産であります。親会社は、姉妹会社を造り子会社を増設します。そして兵器の産業は一億火の玉となつて戦前も戦後もないと云う時代でありました。私も軍の命令と親会社や先輩の推選を受け工場を創立することに成り、指導的役割の地位を授けられ、種々の事情の結果若冠三十代でこの会社の代表の位置に果進致しました。

軍の至上命令は、当時民間の吾々の意思を抗し得ず、全く無視せられ、連日兵器の製造に駆き立てられるという時代であります。「中略」昭和二十年戦局は

正に敗戦の色濃く、東京の空は連日、連夜B二九の襲来で爆弾は処きらはず投下され、為めに人心競々の不安な毎日でありました。「中略」私達科学と兵器に關係ある者が常に懸念している 原子爆弾が遂に八月六日と九日に広島と長崎に投下されました。そして八月十五日、天皇の終戦玉音が全国に放送せられ、神国不敗の日本も、茲に敗戦となり終戦と相成つた次第であります「中略」

私はこの敗戦と混乱の中より立上るべく、私の焼残りの工場に立てこもり、先づ従業員の生活問題、又私自身の手に入る進路を考え、工場の再建を日夜腐心研鑽致しました。種々と研究の結果、結論を得ました事は、焼け残りの機械や機具を買集め、これを修繕して販売することです。特にミシンやモーターなど最も有望と判談致しました。幸に私の部下の技術課長の吉田某は関西出身である 関係上、彼を中心に幾人かの社員を関西地方に出張派遣致しました。そして焼け跡よりこれ等の機械を買集め、ヤミトラックを以て東

京の私の工場に集荷したのであります。これらの機械を私自ら先頭に立つてオーバーホールをして改造加工に従事したので有ります。

皆さん、この中古の脱機械こそ私を今日の被爆者にし、更にこの機械の分解作業に従事した何十人かの私の従業員が放射能の汚染に犯され、遂に死に至らしめたのであります。

これ等の機械こそ広島や長崎で原爆の放射能を受けた機械だったのであります。原爆の恐ろしさは科学者のハンクシレである私も常識的には知っていますが、これ等の機械が原爆にやられていたとは判りません。「中略」一九四五年、即ち昭和二十年八月、戦争が終つた直後、日本はアメリカの占領下に置かれました。そしてアメリカ占領軍の統制によつて、広島、長崎の恐るべき被爆の実相を、そして惨忍な原爆の状況を、日本人に隠し、広く知らせる事を禁止されていきました。当時は原子爆弾と云う言葉を使う事さえも占領軍に因つて禁じられていたのです。

ことは人前では一寸口にしないので仮りに十人の女がいると十箇の茶香茶腕に夫々女の源氏名を書きこれにお茶を入れてご前に差し出す。殿は無言でその内一つの茶腕を取り上げて召し上げるが即ちその召し上つた茶腕の主が言はずともがな当夜同衾を許されたもので、後の者はその儘文句なくひき下る。これがお茶を引くと云う語源になつた様である。

### 編集後記

- とうとう師走を迎えた泣いても笑つても、昭和四十二年の終止符が打たれる。
- 除夜の鐘と共に往く年を送り心を新たに新年を迎えよう。来年こそよい年であります様に。
- 昭和四十三年の新年号は年頭早々にお手許に届けるべく目下原稿鬼集中である。
- 二回ほど「人と店」を休載したが是非連載せよ

人道主義を唱えるアメリカが良心的に、もつと早く原爆の恐ろしい内容を、放射能の恐ろしさを、日本政府や一般国民大衆に知らせたなら、戦后これ等何んの罪みもない私の工場の従業員を殺さずに済んだ事であると考える時、私はアメリカに対して終生忘れる事の出来ない憤激を感じるのであります。

当時これ等中古機械の作業に従事せる私の従業員は次々と欠勤が目立ちます。当時日本は食料難で、ジャガイモや、放出の鶏りのエサの様なトモロコシなどが主食でありました。この栄養のない食料のため、これ等の欠勤者は栄養失調であろう位に軽く考えて大した気にも留めません。「中略」以下次号

### 「古語寸話」

お茶をひく  
この語源はどうして生れたか  
昔殿様は幾人かの二号、三号的な婦女をかかえていた。ところがその殿様が今晚は誰と同衾しようとする



との希望もあり、取材を関谷氏が担当してくれることになつたので、又今月から書く事にしました。では昭和四十二年よさらばである。

昭和四十二年十二月九日夜しるす

高野

### 漢詩一題

穆水

遊新宿御苑（昭四二、二、一〇）

多 彩 菊 花 競 珍 種  
是 多 年 磨 技 功 賜  
御 苑 池 水 映 周 辺  
勝 景 全 一 幅 絵 画

多彩の菊花珍種をきそり  
是れ多年技功を磨きたる賜なり  
御苑の池水周辺をうつし  
勝景まつたし一幅の絵画

物件紹介

(株) 急びす屋不動産

TEL (042361) 三五七八・七九四〇

区分	住宅地	"	宅地	商住地	店舗地	"	区分
最寄駅	京王線 中河原	府中駅	桜ヶ丘バスにて 関場下車	京王線 桜ヶ丘	東上線 大山駅前	西武線 大泉学園	"
徒歩	五分	七分	式分	式分	〇分	式分	五分
土地	四〇坪	式〇坪	五一坪	拾七坪	五三坪	五〇〇坪	三〇〇坪
建坪	式四坪	八坪五	更地	拾式坪	式五坪	更地	更地
総額	五三〇万	式〇〇万		式七八万	八四八万	式億式千万	四千五百万
坪単価			三万五千	拾六万	拾六万	四五万	拾五万
備考	二階六丈、四丈半(高級建築) 下六丈、四丈半、六丈の洋間(新築) 築五年本ガス、市水、車自由		由木街道百M入ル中大側 高台南向、三〇万ベットタン前側	角地何業も良し私道なし業 盛等中なるも、拡張移転電付 事務所又ヘアアパート最適 本ガス、都水道	角地、デパート、銀行用地 大泉唯一の最高級店舗地		高級住宅元将官邸跡

右の物件は委任状及び関係書類を保有

物件紹介

守屋商会

電話 (0423) 六二一七八二五 代表

区分	貸店舗	売家	売家	売家	売家	売家	売家	売地
最寄駅	高幡	分倍河原	府中	分倍河原	北野	多摩墓地	東府中	桜ヶ丘
徒歩	直前	十五分	十五分	二十五分	六分	八分	二分	一分
土地		十八坪	二三坪	一〇五坪	二八坪	七〇坪	八五坪	四二坪
建物	五坪上下	十五坪	十三坪	三三坪	一〇坪	二三坪		
総額	一〇一万	二五〇万	二六〇万	六五〇万	一八〇万	六五〇万	浅間町	
坪単価		二棟					四万五千	四万二千
備考	契二十年	角地	天神町	築五年		築二年	角地	





守 屋 商 会

代表者 榎 峠 優

府中市宮町1～2

府中駅南口スグ前

電話 (0423) 62-7825 代表

株式会社 ゑびす屋不動産

府中支部所属  
不動産ゑびす会相談役

代表取締役 結 城 一 等

京王線・府中駅前 京王タクシー横通り

TEL (042361) 3578.7940

都知事免許  
(1) 四〇三八号